授業科目	＊キリスト教と西南女学院のあゆみ					単位	1
履　　修	必修	関連資格				ナンバリング	WE10103J
開講年次	1	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP4-1		
担当教員	浅野　嘉延、神崎　明坤、金谷　めぐみ、東　彩子						
授業概要	この授業は、西南女学院の歴史を知り、創設者をはじめ主要な宣教師たちの働きや精神を学ぶことから、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深め、「西南女学院生」としての自己形成を深めることを目的とします。まず、キリスト教に基づく女子教育を行うことを目的として設立されたことを学び、各回では主に、西南女学院の発展のために主要な働きを担った人物を取り上げ、その人生や信仰・思想を学ぶことにより、受講生が西南女学院で学ぶ意義を発見していきます。						
学生が達成すべき行動目標	1.西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。 2.設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。 3.キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる。						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	20	0	80	0	100	
知識・理解（DP1-1）					80		80	
知識・理解（DP1-2）								
知識・理解（DP1-3）								
知識・理解（DP1-4）								
思考・判断（DP2-1）								
思考・判断（DP2-2）								
関心・意欲（DP3-1）								
関心・意欲（DP3-2）								
態度(DP4-1)			20				20	
態度(DP4-2)								
態度（DP4-3）								
技能・表現（DP5-1）								
技能・表現（DP5-2）								
技能・表現（DP5-3）								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル
標準レベルに加え、設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。	西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。さらに、キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる。

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション キリスト教に基づく女子教育とは 担当：浅野嘉延・東彩子	講義	授業で示された文献などを読み、興味や関心、疑問点、授	30

			業外で調べたこと等をノートにまとめる。	
2	建学の精神「感恩奉仕」と西南女学院 担当：神崎　明坤	講義	同上	30
3	西南女学院とキリスト教音楽 担当：金谷めぐみ	講義	同上	30
4	WMU 総主事キャスリーン・マロリーの生涯 担当：東彩子	講義	同上	30
5	西南女学院設立を現実とする為に戦った クラーク夫妻の信仰と生涯 外部講師：Russ Borg	講義	同上	30
6	西南女学院創設者J. H. ロウの偉業 外部講師：Russ Borg	講義	同上	30
7	西南女学院第二代院長 M.L.ボールデン夫人の日本での働き 外部講師：Russ Borg	講義	同上	30
8	危機の時代の救済者、吉田敬太郎の信仰と生涯 外部講師：永町友恵	講義	同上	30
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	特になし
テキスト	配布プリント
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	W.M.ギャロット『要』（西南女学院創立 50 周年記念） 『西南女学院 70 周年史』 『丘の上の灯：原松太「自叙伝」からの抜粋』（西南女学院創立 90 周年記念） 湊晶子『今、あえて何故女子教育か』(2009) Mary Neal Clarke：Letters from Lucile ～life and letters of Lucile Daniel Clarke(2005) Ussery, A.W.,& Hunt Alma：The Story of Kathleen Mallory(1956)
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	授業で紹介される文献やインターネットのサイトにあたり、自ら学びを深めるようにしてください。
達成度評価に関するコメント	1.クラスポートフォリオ（8 回×10 点） 2.全体のまとめのレポート（20 点）